

道の駅 FARMUS 木島平再整備計画に対するご意見等について

皆様から頂いたご意見を踏まえ、村では、今後のスケジュールも含めて本再整備計画の見直しを行うこととしました。

皆様のご意見は、見直しにあたり貴重なご意見として参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただきありがとうございます。

I 実施概要

- ① 実施期間 令和7年4月15日（火）～5月15日（木） 31日間
- ② 対象者 村民および村内在勤、在学者
- ③ 再整備計画の閲覧・配布場所 役場産業企画室、農村交流館、村公式ウェブサイト
- ④ 意見提出方法 電子メール・Fax・郵送・持参

II 実施結果

意見等の提出者数 26人（持参10人、電子メール12人、Fax4人）

意見等の件数 84件

III 意見の概要

※お寄せいただいたご意見は、取りまとめの便宜上、趣旨を損なわない程度に要約しました。

1 概ね反対の意見

・施設周辺環境は悪く、村民も必要性を感じていない道の駅に6億円を投じる価値はなく、維持費も無駄である。今後は必要なインフラ整備に資金を回すべき。

・過去10年の状況から再整備は理解できず、現在も限定的な活用にとどまる。10年前の失敗を繰り返す様なことはしないほしい。

・道の駅の立地に反対で、交通量が少なく集客が困難と感じている。多額の投資をするなら、国道沿いなど村の中心に近い場所に整備すべきであり、現状では村の発展にはつながらない。

・前回の道の駅建設では村民の声が無視され、今回は住民投票と結果の公表が必要。交付金と村債で賄えぬ償還金3割の負担や立地の悪さ、特産品の不足から再整備は不要で、村民に負担のない方法を望む。

・村の償還金の負担は3割というが、人口減少を考えれば再整備は不適切。収入見込みも不透明で信頼できず、道の駅計画は白紙に戻し、インフラ整備に備えるべき。村民アンケートで賛否を問う必要がある。

2 進め方に関する意見

・再整備は全戸にアンケートを配布し、村民の賛同（過半数）を得て進めるべきで、得られない場合は中止も検討すべき。

・再整備費用が借入金で賄われるため、全戸アンケートを実施し村民の声を反映させ、議会で討論の上、内容と結果を議会だよりで報告してほしい。

・道の駅再整備に村民の反対が多く、過去にも多数の反対署名があった。財政難の中、再整備は無謀であり、まず財政計画を示した後、アンケートを実施し村民の賛同が過半数に達しなければ中止すべき。

・道の駅再整備に必要性を感じない、村民への説明が不足している。意見を聴くと言いながらやろうとしている。村民の声を真摯に聞き、早くこの問題を解決してほしい。

・道の駅には賛成だが、6億円の再投資には反対。計画は補助金頼みで視野が狭く、人口減少など現状に対応できていない。利益を生まない事業は見直し、思い切った判断が必要。

3 再整備への不安や懸念事項ありとの意見

・地理的条件が悪く観光客の動線から外れるため、ファームスへの6.3億円投資に疑問。観光客の実態調査を踏まえ、過去10年間を総括した上で①存続（役場提案）・②一部解体・③一部存続で新組織設立・④解体後新たな建物と新組織設立・⑤全て解体し更地化の5つの案を提示。個人では④案を支持する。

・ファームス木島平は村内最大の浸水想定地域にあり、6億円の再整備計画に災害対策費が含まれていない点を懸念。現地での改修では水没リスクが高く、安全面から移転を検討すべき。

・飲食、マルシェ、トイレがあれば十分で、他の建物は解体を希望。そばや米など木島平の食の魅力が集客の鍵であり、施設の規模より内容が重要。駐車場の位置も改善点。

・施設の出入口が分かりづらく不便で、フェンスも不要ではないか。近隣直売所との併合が望ましいが実施されておらず、北信地域の産物を広く扱うことで魅力的な拠点になると思われる。

・過去の木島平村議会会議録からファームス木島平の設立経緯を確認した。その上でこれ以上の税金投入には反対。赤字事業の解散と資産回収による村財政の健全化、事業継続にはEBPMに基づく具体的で採算性を重視した計画書の作成、財務・組織体制の明示、住民説明と意見反映のプロセスが不可欠。交付金も住民の負担である。拙速な判断は将来世代に禍根を残す。具体的で採算性を重視した事業計画書を作成後、再度事業計画書に対する住民説明会の開催とパブリックコメントの募集をして欲しい。

再整備予定施設ごとに具体的な計画と採算性を示してほしい。検討の結果不採算ならば反対。

・新設よりも既存施設（農村交流館など）のリノベーションによる活用が持続可能な選択肢である。まずは小規模改修で効果を検証し、村民・事業者・行政合同ワークショップでの議論と費用対効果の試算を経て新設の是非を判断すべき。村債や補助金も住民や将来世代の負担である。再整備による財政圧迫や赤字リスクを懸念。目標値は売上よりも交流・ウェルビーイングの指標を設定して欲しい。観光・農業資源と連携した「暮らし体験リゾート」の実現を提案する。

・A棟は建設せず、跡地に収穫体験などができる「体験型ファーム」を設け、木島平らしさを感じられる道の駅にする。B棟を活用し、周辺施設も含めて村全体を回遊できる案内や機能分散がよいのではないか。

・想定顧客像に対し、近隣施設との差別化や、お米・スポーツ等を通じた価値発揮の方針が必要。コワーキングやショップの利用見込みの根拠や施策、利用頻度向上の検討も必要で、1.5億円規模の需要に見合う売上確保の見込があるか。

4 積極的投資の意見

・ファームスを防災拠点兼道の駅として再利用し、温泉や食事処、避難機能を備える案。一方で全撤去と赤字解消を訴える意見も併記。大手スーパーの誘致や食料供給の拠点とする。

・ファームスは子連れ家族が主な客層であり、屋内外の高品質な遊具の整備が重要。特に天候に左右されない室内遊具や整った遊び場が求められる。全体として施設の品格を保つ高クオリティな整備が必要。

・ファームスは交通量が少ない立地のため、他の道の駅と差別化する独自のコンセプトが必要であり、「ウェルネスの拠点」が有効ではないか。スポーツや健康を軸に、スポーツジムの設置や企業連携によるコワーキングスペースを推奨。チャレンジショップは移動販売など柔軟な形が望ましい。6.27億円の投資に対し、実証実験による検証期間と費用対効果の評価が不可欠で、第三者委員会を設置して、検討を行っていく期間を設け

られれば良い。

- ・木島平村にはコインランドリーがなく、大型洗濯機や乾燥機の需要がある。洗濯中にファームスを利用できることで、相乗効果が期待される。

- ・現状以上の集客には明確なコンセプトが必要である。木島平の魅力として自然に受け入れられる資源である「米」に特化することが良いのではないか。おにぎり専門店や惣菜販売、地元食材活用で日常利用を促進。屋内外の遊び場やペット連れ・学生向けスペースの整備、複数店舗の導入により幅広い層を集客。観光客よりも地元住民の利用を重視し、地域住民の日常的な賑わいを創出することが、最終的に広域からの誘客にもつながる。

- ・飲食スペースは地元食材を使い、給食のような親しみやすい日替わり定食などがあると良い。観光客よりも村民の日常利用を重視し、夜も営業して仕事帰りにも立ち寄れる場所にしてほしい。

- ・再整備は木島平村にとって不可欠であり、自信を持って進めるべき。提案として、2年計画を遅らせ、その間に現ファームスを活性化し住民理解を深めることが確実な方法。再整備は新築とし、周辺の田を取得することで導線改善や営業継続が可能。中途半端な改築より徹底した整備が必要。

- ・北信エリアは道の駅が多く競争が激しい一方で、足元人口が限られており通常の道の駅としての勝負は難しい。そのため、FARMUSを特色ある目的地型施設に再整備する必要がある。①「米の駅 FARMUS」として、お米を中心とした体験型施設とし、飲食や物販、情報発信に加え精米・加工施設を設け、収益の多角化を図る。②天候に左右されない「本」を中心とした屋内文化施設を整備し、地域住民や広域からの来訪を促す。